



劇症型溶血性レンサ球菌感染症について

突発的に発症し、敗血症などの重篤な症状を引き起こし急速に多臓器不全が進行することがある重症感染症であり、その死亡率は約30%とされていますが、重症化するメカニズムはまだ解明されていません。

近年の熊本市での劇症型溶血性レンサ球菌感染症の発生状況(速報値)

2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
7人	6人	8人	3人	11人	17人

10月30日現在

どんな症状? 最初は、腕や足の痛みや腫れ、発熱、血圧の低下などから始まることが多く、その後、組織が壊死(えし)したり、呼吸状態の悪化・肝不全・腎不全などの多臓器不全を来し、場合によっては数時間で、非常に急速に全身状態が悪化します。

治療方法は? ペニシリン系抗菌薬と呼ばれる抗菌薬が第一選択薬であり、使用される抗菌薬自体は一般的に使用されるものです。しかし、抗菌薬による治療のみでは改善が困難な場合が多く、緊急手術による広範囲の壊死(えし)した病巣(びょうそう)の除去や集中治療室での全身状態の管理を要する場合があります。

予防方法は? 劇症型溶血性レンサ球菌感染症に限らず、多くの感染症の予防には、手指衛生や咳エチケット、傷口の清潔な処置といった、基本的な感染防止対策が有効です。また、発熱や咳、全身倦怠感などで食事が取れないなど体調が悪いときは、かかりつけの医療機関などを受診しましょう。



定点 種別	疾患名	状況	42週(10/13～10/19)		43週(10/20～10/26)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症 (ARI)	インフルエンザ	—	23	0.96	81	3.38
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		56	2.33	43	1.79
	急性呼吸器感染症(ARI)		1201	50.04	1348	56.17
小児科	RSウイルス感染症		29	1.93	28	1.87
	咽頭結膜熱(プール熱)	—	4	0.27	2	0.13
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	—	14	0.93	21	1.40
	感染性胃腸炎	—	42	2.80	48	3.20
	水痘(みずぼうそう)	—	2	0.13	2	0.13
	手足口病	—	2	0.13	4	0.27
	伝染性紅斑(りんご病)	○	56	3.73	41	2.73
	突発性発しん		6	0.40	11	0.73
	ヘルパンギーナ	—	0	0.00	1	0.07
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	—	2	0.13	2	0.13
眼科	急性出血性結膜炎	—	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	—	12	2.40	14	2.80
基幹	細菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
	無菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		10	2.00	12	2.40
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。

○:警報レベル △:注意報レベル —:警報・注意報レベルなし